

「モモの果実に文字や図柄を入れる方法」の概要

【発明の名称】 表示具と果実の生産方法 特許第 6716808 号 (R2. 6. 15)

本発明は、山梨県総合理工学研究機構が、平成28年度～30年度に実施した「モモ・ブドウの肥大促進技術の確立とブランディングに関する研究」の成果として得られたものです。

1. 背景技術

果実に文字や図柄を入れる方法としては、リンゴで果実に直接シールを貼り付けて遮光し文字等を再現するが、モモ果実は表面に毛じがあるとともに、着色期における肥大率が大きく、シール貼付は困難であることから、新たな手法を開発した。

2. 特許化した技術

本発明の表示具は、光透過性を備える基部と、基部より光透過性が低い部分を含む表示シートを有するので、果実を覆って光を照射すれば、光の透過度の違いに基づく果実の着色の違いによって、果実表面に簡易に表示を施せる。さらに、基部が伸縮性を備えるので、本発明の表示具で果実を覆っても、表示シートがずれにくく、きれいな表示が施せる。

3. 特許のイメージ

[具体的データ]

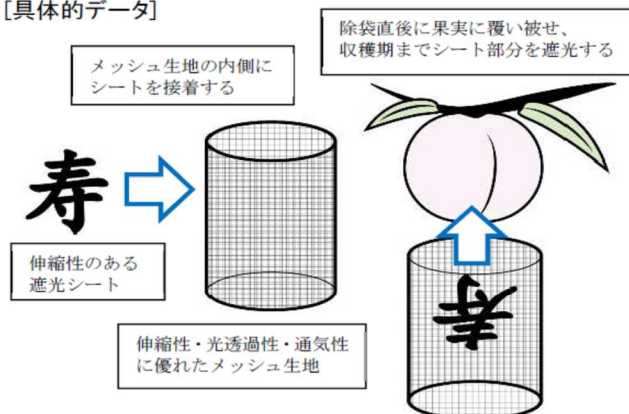


図1 文字や図柄を入れる方法（模式図）



図2 メッシュ資材で被覆した果実



図3 図柄等を入れたモモ果実（「なつっこ」、2017）